

復活徹夜祭ミサ

中野裕明司教 ミサ説教

2021年4月3日 鹿児島カテドラル・ザビエル教会

私たちは今夜復活徹夜祭のミサを捧げています。今晚のミサはとても盛りだくさんの構成になっています。その点だけでも、この復活徹夜祭のミサの重要性にお気づきになるのではないかと思います。それでごく簡潔に今晚の典礼の意味をお話したいと思います。

まず、申し上げたいことは、私たちが信じているキリスト教は、ユダヤ教を母体として生まれたものである、という事です。イエス自身ユダヤ人だったし、弟子たちもみなそうでした。みな熱心なユダヤ教徒として、ユダヤ教の祭儀を実行していました。

今日の一週間も、ユダヤ教の3大祭りのひとつである、過ぎ越し祭のお勤めの最中でした。その証拠に、復活祭はユダヤ教の暦にしたがっているのです。クリスマスと異なり、移動日になります。ユダヤ教は、イエスが生まれる前から存在していたし、現在でも存在しています。

ただ、2021年前のユダヤ教の過ぎ越し祭の最中に一つの事件が起きたのです。それはこの祭りの最中に、ユダヤ教の宗教指導者たちは、ナザレ出身のイエスという男を、神への不敬罪を犯したということで十字架刑にしてしまったのです。これは一つの事件ですが、ただその後、新しい出来事が起こったのです。墓に埋葬されたはずのイエスの遺体が消えてしまったというのです。

この情報を今日まで伝えているのが、先ほど朗読された、福音書の箇所です。それによると、「あなた方が十字架につけられたナザレのイエスを探しているが、あの方は復活なさってここにおられない」というものです。この文章はきれいな日本語訳になっていますが、ギリシャ語の本文では、「あなた方が探している、ナザレのイエス、十字架にかけられた、復活させられた、ここにはいない」となっています。

ギリシャ語の文法的解釈を加えると次のようになります。

「みんなが知っている、ナザレ出身のイエスは十字架にかけられて死んだ。」この「十字架にかけられた」という言葉は、文法的には、完了過去形の受動態です。その意味するところは、過去の一回限りの出来事ですが、その影響は今日まで及んでいる、という意味を含ませているそうです。

つまり、それは、「かけがえのない行為」、「優れた行為」という意味合いを含んでいるものです。現代人の私たちが理解するとするなら、人類が初めて、月面に足を踏み込んだ時の宇宙飛行士の発した言葉が思い出されます。彼は月からこう言いました、「私の一歩は小さな一歩に過ぎないが、これは人類の偉大な一歩である」とう表現です。

それから、「復活した」という言葉ですが、これは、「再び起き上がる」という動詞で自動詞です。しかし文脈では、受動態の過去形で使われています。つまり復活の原因を神に帰する、という意味を含んでいるわけです。この表現は使徒言行録や聖パウロの書簡でもよく出てくる用法です。

ヘゲイロウというギリシャ語は、復活とか、復興という日本語に訳されていますが、東北大震災からの「復旧」ではなく、「復興」にしたのは、今までの状態に戻すのではなく、新しい創造を加えて、より良い状態にする、と意向が込められていると思います。

さらに、「ここにはいない」という表現は、イエスはもはや人間や死の支配下にはいない、と解すべきでしょう。全能の神の支配下にあるといえます。

この復活の朝の時点で、にわかに、ユダヤ教からキリスト教が誕生したわけではありません。それから、約300年の月日をかけて、キリスト教の骨格が形成されていくことになります。今日の出来事は、ちょうど旧約と新約の中間点、つまり、ちょうどつがいの位置にあります。

「死から命へ移られたイエス」を記念しながら私たちは、「罪の闇から、恩恵の光へ」と移行できますように祈りましょう。